

シンシア

あなたと女子医大を結ぶコミュニケーションマガジン

Sincere

TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

No.11
2019.1



細胞シートを心臓に移植する再生医療。



Sincere
シンシア
No.11

発行 学校法人 東京女子医科大学
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 TEL.03-3353-8111 (代)
<http://www.twmu.ac.jp/>

発行日 2019年1月
制作 株式会社 教育広報社

■「Sincere」に関するお問い合わせやご意見・ご要望は、下記までお気軽にどうぞ。
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学 広報室 Mail address: kouhou.bm@twmu.ac.jp
※「Sincere」のバックナンバーはすべて大学ホームページからご覧いただけます。

宇良田 唯

(うらた ただ 1873～1936年)

医学博士の学位を授与された
初の日本人女性

◆婚家を出奔して学問への道を歩む

日本国内で最初に医学博士の学位を取得した女性は、吉岡彌生が創立した東京女医学校の卒業生・宮川庚子である。1930(昭和5)年のことだった。それより四半世紀も前の1905(明治38)年、ドイツの大学から医学博士の学位を授与された日本人女性がいた。それが宇良田唯である。

唯は1873(明治6)年5月、現在の熊本県天草市牛深町で生まれた。宇良田家は「萬屋」の屋号を持つ大店で、のちに唯がドイツへ留学できたのもその財力のおかげだった。

結婚適齢期を迎えた唯は、地元の豪商「塩屋」の若旦那と祝言を挙げた。だが、向学心が旺盛だった唯は、「もっと勉強がしたい」という手紙を残して婚家を出奔してしまう。それは盛大な宴が催された婚礼当日のことだったともいわれている。

遠縁の薬種商「吉田松花堂・諸毒消丸本舗」に身を寄せた唯は、1890(明治23)年11月に私立熊本薬学校(熊本大学薬学部的前身)へ入学。2年後に卒業して薬剤師試験に合格し、1894(明治27)年8月に国の薬剤師名簿に正式登録された。

◆医師になる夢を追ってドイツに留学

現在の熊本市中央区新町で漢方薬局を開業した唯だが、眼科医になりたいという夢を強く抱くようになった。当時、生まれ故郷の牛深には眼病を患う人が多かったからだ。意を決して薬局をたたみ、1895(明治28)年に上京して済生学舎に入学。通常は3年間の修学を要するが、薬学を修めていた唯は1年半で修了。



医術開業試験もスムーズに突破し、1899(明治32)年6月に医籍登録された。

医師免許を取得した唯は、北里柴三郎が率いる国立伝染病研究所に入所し、引き続き医学修業に打ち込んだ。2年後に母から懇願されて故郷へ戻り医院を開業したもの、ドイツ留学を見据えていた唯はわずか1年半後に再び上京してドイツ語と英語を猛勉強。そして1903(明治36)年1月、唯は北里柴三郎の紹介状を携えてドイツのマールブルク大学へと旅立った。出発前、日本女医会の新年会を兼ねた送別会が行われたが、その幹事を務めたのが吉岡彌生だった。

マールブルク大学に留学した唯は、附属眼科クリニックのルートヴィヒ・バッハ教授の指導を受けることとなった。眼科の研究だけに没頭したかった唯だが、バッハ教授は病理学や生理学、産婦人科学、内科学、外科学などあらゆる授業を受けるよう命じた。学位取得の際の口頭

試問に備えるためだったが、これがのちに中国・天津での医療活動に大きく役立つこととなった。

毎日下宿と大学を往復しながら勉学に励んだ唯は、1905(明治38)年2月、晴れて医学博士の学位を取得した。これは、マールブルク大学初の女性医学博士誕生という快挙でもあった。

◆中国・天津で現地の人たちに慕われる

帰国した唯が念願の眼科医院を牛深に開業したのも束の間、学習院女子部から教員として招聘され上京することとなった。だが、「自分の天職は教育者ではなく医師」だと再認識した唯は、教員を辞して神田に宇良田眼科医院を開業した。

1907(明治40)年、唯は北里柴三郎のすすめによって中国・天津で仕事をしていた薬剤師の中村常三郎に嫁いだ。天津に渡った唯は、眼科のほか産婦人科、内科、小児科を備えた3階建ての同仁病院を開設し、院長に就任。夫・常三郎はその1階で薬局と印刷所を経営した。

同仁病院には日本人のほか、ヨーロッパ人や中国人の患者も訪れたが、唯は中国人を差別することなく診療。そのうえ貧しい人からは治療費を取らず、ときには往診に行きつてそとお金を置いてくることもあったとか。こうした唯を現地の人たちは“女神さま”と呼び、深く敬慕したという。

同仁病院での唯の診療活動は20年以上におよんだが、1931(昭和6)年に夫が急逝し、戦局も激化してきたことから、翌年に帰国。その4年後の6月、肝臓がんのため波瀾万丈の生涯を閉じた。

参考文献／「ドクトルたちの奮闘記——ゲーテが導く日独医学交流」(著者：石原あえか、発行：慶應義塾大学出版会)、「道德教育用郷土資料「熊本の心」中学校」(発行：熊本県教育委員会)

シンシア
Sincere

2019年1月 No.11

Sincereは「誠実な」という意味。東京女子医科大学の理念である「至誠と愛」の「至誠」を表しています。

C O N T E N T S

04 至誠人

福下 公子

(公益社団法人東京都眼科医会会長・烏山眼科医院院長)
視覚障がい者支援の輪と女性医師活躍の場をもっと広げたい

06 医療最前線 ●心臓血管外科2

先天性心疾患・重症心不全・
心筋再生治療でも最先端を走る

細胞シート移植による最先端の再生医療。

11 がんばれ! 女性医療人

彌生塾

リーダーとして活躍する
女性医療人の輩出をめざす

彌生塾で講演する小池百合子東京都知事。

14 女子医出身者が活躍する街

東京都調布市

古刹に抱かれた文化・スポーツ都市



調布市のランドマーク・深大寺。

■調布病院：女子医出身の親子3代が院長を継ぐ地域にやさしい病院

■調布の見どころ：深大寺／鬼太郎茶屋／神代植物公園／味の素スタジアム

■グルメスポット：クリスマス亭／湧水／花円茶厨房

18 施設将来計画・シリーズ③新東医療センター

東医療センターが2021年度に荒川区から足立区へ移転

20 こんなところが女子医大

母性看護学実習

母親の偉大さと生命の尊さを実感



母性看護学実習の一コマ。

23 吉岡彌生物語 その11

診療現場を退き欧米諸国を視察

【表紙】

身体の中から

イラストレーター
中井 絵津子

湖はまだ
ピリリと冷たい空気に包まれている。
その湖を抱く森は
そろそろ春を迎える準備中。
みんなより早く目覚めた腹ペコリスが
木の実を見つけて頬張っている。
お腹から温まっていくのがわかる。

さあ、熱いお茶をいれよう。
身体がポカポカしてくる。
森のあちこちで目覚めた命を
春は優しく迎えてくれる。

※東京女子医科大学病院総合外来センター1階
小児科待合室の壁画は中井さんが描いたものです。

視覚障がい者支援の輪と 女性医師活躍の場をもっと広げたい

京王線千歳烏山駅近くに眼科医院を開業し、地域の人々に親しまれている福下公子さんは、2018年6月に公益社団法人 東京都眼科医会の会長に選出された。女性活躍の推進が叫ばれている中、3人目の女性会長となる福下さんへの期待は大きい。会長としての抱負と、開業医としての今後の取り組みについて語っていただいた。

福下 公子

(公益社団法人 東京都眼科医会会長・烏山眼科医院院長)

■思い出深い長野の病院での夏休み

父が勤務医、母が開業医という環境の中で育った私は、小学生の頃から医師になりたいと思っていました。シュバイツァーや北里柴三郎、野口英世などの伝記に啓発されたことも、医師をめざすきっかけとなりました。ところが、医学部への進学には父も母も反対。私がのんびりした性格だったため、医師には向いていないと思ったのでしょう。

それでも医師になりたいという気持ちが強かった私は、両親から出された「地方の大学と浪人はダメ」という条件をクリアし、第一志望にしていた東京女子医科大学(以下、女子医大)に入学することができました。

学生時代、学園祭のときに公害病をテーマにした研究発表を行いました。当時、水俣病やイタイイタイ病は風土病だといわれていましたが、公害と関係があることが分かってきつつありました。そうした公害病の研究を通して、医療は社会に密着したものでなければならないということを学びました。

5学年の夏休みに、農村医学の発展に貢献された若月俊一先生が率いる長野県の佐久総合病院で研修を受ける機会を得たことも、医療を通して地域社会に貢献できる人間になろうという思いをより強くする契機となりました。

学内では、心臓外科の榊原仟先生、糖尿病内科の小坂樹徳先生の講義がとても印象的で、医療に対する情熱がひしひしと伝わってきたことを今でも鮮明に覚えています。

■外科にこだわって眼科医をめざす

もともと内科医になるつもりでしたが、大学で学ぶうちに外科にも興味がわいてきました。でも、外科は女性をすんなり受け入れてくれる時代ではありませんでした。そこで注目したのが、内科的・外科的の両面からアプローチできる眼科です。眼科の手術といえばそれまで肉眼的手術でしたが、顕微鏡手術が世界的に広まりつつある時代で、「それを担うのが自分の使命なのではないか」と思うようになりました。5学年のときです。

とはいえ、その頃の女子医大の眼科はまだ内科的で、自分の思っているイメージではありませんでした。そこで卒業後、父のアドバイスもあって東京医科歯科大学(以下、医科歯科大)の眼科学教室に入局することにしました。医科歯科大は国立で、皆が切磋琢磨していましたので、女性だけの居心地の良い環境で学んできた私は、ついていくのが大変でした。のんびりした性格の私が、医師として務まるようになっていったのは、医科歯科大で揉まれたからだと思っています。

約9年間、医科歯科大で過ごしたあと、1983年に取手協同病院(現・JAとりで総合医療センター)から「総合病院にふさわしい基礎づくりをしてほしい」との要請を受け、同病院の眼科医長に就任しました。

その頃、私は小田急線祖師ヶ谷大蔵駅近くに住んでいて、2歳になる子どもがいました。朝6時に家を出て、仕事から離れていた母親に子どもを預け、8時過ぎに取手の病院に着いて手術などの診療をこなし、夜8時頃帰途につくという毎日。正直、きつかったですね。

■勤務医から開業医に転じ地域に貢献

そういう生活を1年3か月続けて取手協同病院を辞し、1984年4月、京王線千歳烏山駅近くに烏山眼科医院を開業しました。両親がほど近い調布に住んでいたため子どもを預けるのに便利だったことが、この地に開業した理由です。住まいも医院の近くに移転しました。

千歳烏山駅は急行の停車駅でもあり、駅前商店街は賑やかで老若男女が

行き交い、気軽に挨拶を交わし合う地域性豊かな街です。ここで開業医として再スタートを切ったわけですが、それまで勤務医として手術をたくさんこなしてきただけに、一人ではそれができなくなったことが残念でした。でも、当院での診療をはじめ、校医を務めたり屈折矯正や臨床遺伝専門医としてカウンセリングを行ったりすることを通じて、地域医療に携わっているという意識を強く感じるようになりました。

ここ10年ほどは、特にロービジョン(視機能が低下した視覚障がい)患者さんのケアに力を入れています。月1回、ロービジョン患者さんにお集まりいただき、私が医学的な話をしたり、ボランティアが朗読をしたりするなど、情報交換をしながら患者さんをケアするという活動を行っています。この間、患者さんのご家族はケアから解放されることはいうまでもありません。

■自立した女性を輩出する女子医大

2018年6月、東京都眼科医会会長の大役を仰せつかりました。東京都眼科医会は100年以上前の1912年に設立された長い歴史を有し、私は24代目の会長ということになります。会員は現在2,300人強。このうち開業医が約4割、勤務医が約6割を占めており、両者が手を携えながら都民の目の健康と福祉の向上に努めています。

会員の男女比はほぼ半々の構成となっていますが、女性が会長になったのは私が3人目で、現在常任理事を務めている女性は1人だけという状況です。これは、社会活動に積極的ではない女性が多いということの裏返しともいえます。ですから、女性をもっと活動しやすい眼科医会にしていかなければなりません。幸い、女性の私が会長になったこと



烏山眼科医院での診察風景。

により、眼科医会だけでなく他の分野からも女性活躍への期待が寄せられていることは強い限りです。

前述したロービジョンの人たちは、いわゆる社会的弱者といえます。恵まれた環境にある人たちは、そうした弱者に手をさしのべて共生社会を形成していくべきではないでしょうか。その一環として、東京都眼科医会ではロービジョン者を支援する「東京都ロービジョンケアネットワーク」を構築し、2018年から運用を開始しています。この取り組みをもっと浸透させて地域に広めていきたいと考えています。

私が社会的にも経済的にも自立していられるのは、医師になったからだと思っています。その原点は女子医大にほかなりません。自立した女性を育成するために、女子医大の果たす役割はこれからも大きいといえるでしょう。



福下 公子(ふくした きみこ)

1974年3月東京女子医科大学卒業。同年4月東京医科歯科大学医学部眼科学教室に入局。81年4月同大学医学部講師、82年7月同大学医学博士。83年1月茨城県厚生連取手協同病院(現・JAとりで総合医療センター)眼科医長に就任。84年4月烏山眼科医院を開業し院長に就任。日本女医会理事、日本眼科医会副会長、東京都眼科医会副会長を歴任。2018年6月から東京都眼科医会会長。現在、日本失明予防協会評議員、東京女子医科大学評議員、至誠会理事を務める。



先天性心疾患・重症心不全・ 心筋再生治療でも 最先端を走る

東京女子医科大学病院の心臓血管外科は、先天性心疾患治療のリード役を果たし、心臓移植を究極とする重症心不全治療にも定評がある。さらに、細胞シートの移植によって心臓の機能を改善させる再生医療分野でもパイオニア的存在である。今号ではそれらの最前線をレポートする。

山岸正明客員教授と新川武史准教授の師弟コンビによる小児先天性心疾患手術の様様。

◆小児心臓血管外科医のみことな技

2018年9月7日、女子医大病院中央手術室の13番手術室で生後10か月の男の子の心臓手術が行われた。疾患名は心室中隔欠損症。左心室と右心室の間にある壁(心室中隔)に穴が空いているため、左心室から右心室へ血液が逆流して心不全や肺高血圧を引き起こすという疾患である。先天性心疾患の中で最も多く見られるタイプだ。手術は、この穴を“パッチ”と呼ばれる特殊な素材で塞ぐというものである。

10時30分、新川武史准教授の執刀により手術開始。山岸正明客員教授(京

都府立医科大学小児心臓血管外科教授)が助手を務めた。後述するように2人は師弟関係にあり、手術はまさに“あうんの呼吸”で流れるように進んでいく。

まず、胸の真ん中にメスを入れ、皮膚と胸骨を切開。まだ赤ちゃんともいえる小さな子が対象だけに、そうしたアプローチも難しいのではないかと興味津々だったが、あつけにとられるほどスムーズに開胸され、心臓に到達した。

心室中隔に空いた穴を塞ぐには、人工心肺装置を用いていったん心臓の拍動を停止させ、短時間でパッチを縫いつけなければならない。人工心肺装置作

動後の11時10分、男の子の心臓の拍動が停止した。手術室に一気に緊張が走り、比較のおだやかだった室内の雰囲気が一変と張りつめた空気に変わった。新川氏も山岸氏も神経を研ぎ澄まし、パッチを縫いつける指先の動きに集中する。

縫いつけが終了したあとの11時35分、男の子の心臓の拍動が再開した。スタッフに安堵の表情が浮かび、手術室は大きな緊張感から解放された。

パッチを縫いつけて心室中隔の穴を塞ぐのに要した時間は、正味約20分。狭い術野と小児の小さな心臓を考慮す

れば、ずば抜けたスピードと精度だといえよう。新川・山岸両氏の腕の確かさと繊細な技は、もはや芸術的といっても過言ではない。

◆アメリカで10年以上手術の腕を磨く

2018年4月に女子医大心臓血管外科の准教授に就任した新川氏は、アメリカで10年以上にわたって小児心臓血管外科医として腕を磨いてきた人物である。1996年に京都府立医科大学を卒業した彼は、「いろいろな種類の手術ができる」との理由から、同大学の小児心臓血管外科でトレーニングを積んだ。このときの指導者が山岸氏である。

アメリカへ渡ったのは2006年。ミシガン大学小児心臓血管外科が最初だった。その後、2008年にフィラデルフィアこども病院胸部外科、2009年にカリフォルニア大学サンフランシスコ校小児心臓血管外科を経て、2011年から7年間、アーカンソーこども病院小児／先天性心臓血管外科に勤務した。この間、約3,000例におよぶ手術を経験。このうち執刀数は優に1,000例を超え、心臓移植の執刀も42例の実績を残している。

一方、山岸氏は小児心臓血管外科医として内外に知られる名医である。1983年に京都府立医科大学を卒業後、心臓外科医をめざして当時世界的な名声を誇っていた女子医大附属日本心臓血圧研究所(心研)に入局。「高度な技術が求められる先天性心疾患手術への興味がわいた」ことから、小児心臓血管外科を専門とする道を歩んだ。心研に約8年間在籍した彼はその後、東京慈恵会医科大学、埼玉県立小児医療センターを経て1997年に母校の京都府立医科大学に転じ、2006年に教授となって現在に至っている。

旧知の仲である女子医大心臓血管外科の新浪博士教授(女子医大病院副病院長)とは心研時代に知り合い、「妙にウマが合った」という。当時、女子医大は先天性心疾患治療で圧倒的な実績を誇っていた。その復活を期して新浪教授から小児心臓血管外科のテコ入れを

要請された山岸氏は、経験豊富な新川氏に白羽の矢を立て、アメリカから呼び戻したのである。いわば“三顧の礼”をもって女子医大に招いたわけだ。それだけに新浪教授の期待は大きく、新川氏も「アメリカの良さと日本の優れている部分をミックスさせながら、女子医大に新風を吹き込んでいきたい」と抱負を語る。

◆成人先天性心疾患治療でもリード

新川氏は現在、週2例のペースで先天性心疾患の手術を行っている。年間では約100例となる計算だ。これらの中には、小児期に手術を受けた患者さんが大人になり、再手術を受けるという成人先天性心疾患も含まれている。「小さい頃に植え込んだ弁が損傷し、修復せざるをえないといったケースがけっこうあります。そうした成人先天性心疾患の手術の割合が約4割を占めています」とのことだ。

小児心臓血管外科医が成人先天性心疾患まで診るという発想はもともとなかったという。しかし今日では、「先天性心疾患に精通した医師が、大人を対象とした病院で手術を行うべきというのが定説となっています。これに該当するのが大学病院であり、女子医大では僕が成人先天性心疾患の手術も担当しています。他の施設で手術を受けた人が、そこでは再手術に対応できないため女子医大に来られるという場合も少なくありません」と新川氏はいう。このように、成



小児心臓血管外科を専門とする山岸正明客員教授(左)と新川武史准教授。



日本臓器移植ネットワークの理事を務める
布田伸一教授。

人先天性心疾患の治療でも女子医大は大きな役割を担っているのである。

◆チームで心臓移植患者さんをケア

冒頭に記した生後10か月の男の子が心臓手術を受けた同日(2018年9月7日)、19番手術室では心臓移植が行われていた。脳死と判定された臓器提供者(ドナー)の心臓を、重症心不全の移植希望者(レシピエント)に移植する手術が心臓移植である。

2日前の9月5日、長崎大学病院に入院していた成人女性が脳死と判定され、心臓・両肺・肝臓・脾臓・腎臓の各臓器が提供された。日本臓器移植ネットワーク(JOT)に登録されている移植希



重症心不全治療チームによるカンファレンスの模様。

望者の中から、臓器ごとにコンピュータで公平にレシピエントが選定され、心臓が女子医大病院に入院中の30歳代男性に移植されることとなった。

翌日の夕方、摘出班が長崎大学病院へ向かい、7日早朝にドナーの心臓を摘出。それをヘリコプターで羽田空港へ、そこから緊急車両で女子医大病院に搬送し、10時に手術室へ持ち込まれた。こうした摘出や搬送の時間を逆算して、すでにレシピエントの手術が進められており、直ちに到着した心臓の移植が開始された。ちなみに、当該ドナーの脾臓と腎臓(1個)も、女子医大病院に入院中の50歳代女性に同時移植された。

移植後の患者さんをケアするのが、医師をはじめ移植コーディネーター、看護師、薬剤師、理学療法士など多職種のスタッフで構成される「重症心不全治療チーム」である。移植直後はもとより、これまで海外渡航移植を含めた100人近い移植患者さんを診ている。移植コーディネーターはドナーとレシピエントの「橋渡し役」であり、実際に移植が行われるときはJOTと連絡を取りながら全体のタイムスケジュールを組む役割も担っている。チームを率いる布田伸一教授(女子医大大学院重症心不全制御学分野、東医療センター心臓血管診療部)は次のように語る。

「移植後はまず止血に努めます。次に、ドナーの心臓はレシピエントのものではないため拒絶・排除しようとするからです。これを抑えるための処置が必要です。拒絶のタイプは人によって異なりますから、投与する薬も違ってきますが、免疫抑制薬を服用すると抵抗力が低下して感染症にかかりやすくなります。ですから、きめ細かな管理をしなくてはなりません」

移植を受けた30歳代の男性は、幸い拒絶反応を起こすことはなかった。そして、長い待機期間によって生じた筋肉の衰えから、リハビリに少々時間がかかったものの、3か月半後の12月22日、元気になって退院したとのことだ。



長べらに載せられた細胞シートを慎重かつ丁寧に心臓に貼り付けていく場面。

◆年の瀬の深夜から行われた心臓移植

現在、全国11病院が心臓移植施設として指定されているが、女子医大病院は大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センターとともに、1997年に日本で最初に指定され、11歳未満の心臓移植も可能な4施設の1つにもなっている。前述の移植は2018年に入って2例目、累計では27例目となるが、暮れも押し詰まった12月28日、同年3例目(累計28例目)となる心臓移植が行われた。

ドナーの心臓を受け入れるべく、28日深夜の午前1時過ぎから新浪教授、駒ヶ嶺正英医師(医局長)、市原有起医師がレシピエントの20歳代男性の手術をスタートさせた。臓器提供先の病院へ出向いていた斎藤聡准教授、西中知博准教授らによって摘出されたドナーの心臓は、朝7時に女子医大病院に到着。すぐさま移植が開始され、手術終了後はICU(集中治療室)に移されて重症心不全治療チームにケアが委ねられた。深夜からの手術、その後の気を抜けないケアを、年末年始に休むことなくこなしている彼らの姿に頭が下がる思いだった。

移植を受けた20歳代の男性は5年以上、補助人工心臓に頼りながらそのチャンスが来るのを待ち続けてきた。JOTの理事であり、その倫理委員会委員長と広報委員会委員を務める布田教授は、「心臓移植を希望する登録者は現在



細胞シートの移植は応援に駆けつけた大阪大学の澤芳樹教授(右)と市原有起医師によって行われた。

700人強を数えますが、脳死による心臓の提供は年間50～60件にすぎず、待機期間が3年以上となっているのが現状です」という。

そして、「もっとドナーが増えるよう市民公開講座を開いたり、ドラマ『コード・ブルー』の医療監修を行うなどメディアを活用した啓発活動を展開したりして、それなりの手応えを感じています。また、小学校の道徳教育に臓器移植が盛り込まれるようになりましたから、臓器提供についての理解もこれから深まっていくでしょう」と期待を寄せている。

◆細胞シートによる再生医療でも先駆

重症心不全の新たな治療法の一つとして注目されているのが、細胞シート移植による再生医療である。細胞シートは、女子医大先端生命医科学研究所の岡野光夫特任教授が開発。これをベースに、大腿部の筋肉に含まれる筋芽細胞を培養してシート状にしたものが筋芽細胞シートである。先端生命医科学研究所の研究グループが、大阪大学大学院心臓血管外科の澤芳樹教授が率いるグループと共同開発したものだ。この筋芽細胞シートを重症心不全患者さんの心臓に貼り付けることにより、低下した心機能を改善させることができるのである。

女子医大は2012年12月に筋芽細胞シート移植の治験を2例実施。大阪大学と東京大学での治験を含めた7例の治

験結果を踏まえ、2016年5月に医療機器製造・販売企業のテルモが「ハートシート」の発売を開始。細胞シート移植が本格的に実用化された。

2018年10月17日、女子医大で実用化第2号となる筋芽細胞シートの移植手術が行われた。執刀医は前出の市原有起医師。大阪大学大学院心臓血管外科で再生医療の中心的人物である宮川繁特任教授がアシストにつき、澤教授も応援に駆けつけてきた。手術を受けるのは60歳の女性。心臓の収縮力を表す左室駆出率(心拍ごとに心臓が送り出す血液量を、心臓が拡張したときの左室容積で割った値)が、正常な人は80%位なのに、20%しかないという重症心不全患者さんだ。心筋梗塞がその原因である。

◆重症心不全治療の選択肢が増える

午前11時過ぎに手術がスタート。1枚ずつシャーレに入った6枚の細胞シート(1枚は予備)も、テルモから手術室に届けられた。2か月前の8月中旬に、患者さんの大腿部の筋肉を採取し、筋芽細胞シートが培養されていたのである。

左側面の肋間を切開して心臓に到達後、開胸器で術野を確保し、心筋梗塞によって虚血状態となっている個所を確認。そして、5枚の細胞シートをどこに貼り付けるかを見定め、用意してあった小さな円形シートを利用してそのリハーサルを行った。円形シートの素材は極薄の医



治療方針を検討する(左から)布田教授、服部英敏医師、移植コーディネーターの遠藤奈津美看護師、菊池規子医師。



弥生記念講堂で開催された心臓血管外科のシンポジウム。

療用手袋で、それを円状にカットして細胞シートに見立てているのである。

12時前に澤教授が手術室に入室。いよいよ細胞シートの移植開始である。澤教授と市原医師の共同作業により、1枚ずつ丁寧にシートが貼り付けられていく。5枚目のシートの移植が終わったのは12時25分だった。

「細胞シート移植は、重症心不全患者さんに対し心臓移植と補助人工心臓の植込み以外にも治療の選択肢を提供できるという点において、大いに意義があると思います。しかも手術は低侵襲で、患者さん自身の細胞を使いますから拒絶はなく、感染のリスクも低いという大きなメリットがあります。合併症があって心臓移植が難しいという患者さんにも期待

していただける治療法ではないでしょうか」と市原医師はアピールする。

女子医大病院には近々、「インペラ」という世界最小・最新のハートポンプが導入される予定だ。急性心不全に対し、開胸せず低侵襲で血流補助を迅速に行える装置である。市原医師は、「細胞シート移植を含めた重症心不全治療において、インペラを駆使した治療にも取り組み、さらに救命率や治療成績の向上を図っていききたいですね」と抱負を語ってくれた。

◆**心臓血管外科治療の最前線を訴求**
女子医大の心臓血管外科は、2017年7月から新浪教授が率いるようになって以来、徐々に往年の輝きを取り戻しつつある。それを象徴し、学内外に再び

シンポジウムの講演者とタイトル

- **澤 芳樹**
(大阪大学大学院心臓血管外科教授)
重症心不全のFuturability
- **山崎 健二**
(北海道循環器病院先進医療研究所長)
植込型補助人工心臓治療の最前線
- **布田 伸一**
(東京女子医科大学大学院重症心不全制御学分野教授)
心臓移植の贈り物
- **烏飼 慶**
(獨協医科大学埼玉医療センター心臓血管外科准教授)
低侵襲カテーテル治療の最前線
- **下川 智樹**
(帝京大学医学部心臓血管外科主任教授)
ロボット支援心臓手術

“心臓外科のメッカ”という名声を印象づけたのが、2018年9月29日に弥生記念講堂で開催されたシンポジウムだ。テーマは「ここまで来た!心臓血管外科治療の最前線」。新浪教授が座長を務め、5人の演者がそれぞれの専門分野における最前線の治療について熱く語った。具体的な演者とタイトルは別表のとおりである。

また、2018年10月3日には総合外来センターの5階大会議室で、重症心不全治療をテーマにしたランチョンセミナーが行われ、心臓移植の権威者であるドイツのヤン・グンマー氏と、インペラの第一人者であるアメリカのジョン・コバシガワ氏が講演。50人を超える参加者が熱心に耳を傾けた。

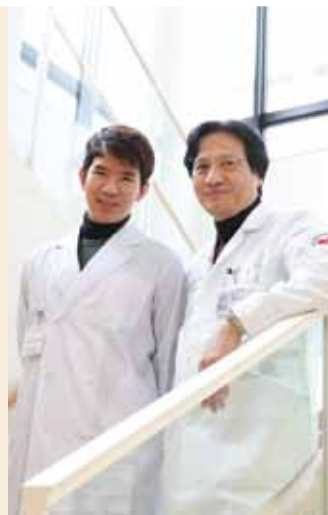
東南アジアへの医療支援活動を推進

東京女子医科大学心臓血管外科教授(女子医大病院副病院長) **新浪 博士**

僕は毎年、タイやミャンマーを訪れ、人工心肺装置を使わないオフポンプでの冠動脈バイパス術の普及・支援活動を行っています。約8年前、オーストラリアへ留学中に一緒にトレーニングしたタイの女性医師から、「バンコクの病院でオフポンプバイパス術をやってほしい」との要請を受けたのが始まりでした。ミャンマーへは、ヤンゴンに赴任していた証券マンの友人に誘われて2013年に現地を訪れ、そのときにヤンゴン総合病院の心臓外科チームから支援要請されたのがきっかけとなって通うようになりました。以来、毎年5月と11月にミャンマーへ出向き、オフポンプ冠動脈バイパス術の普及に努めています。10回目となった昨年

11月も、実質4日半の滞在中に8例の手術を行いました。

タイからは留学生も受け入れており、昨年12月には僕が女子医大に来てから3人目となる留学生がトレーニングに励みました。ミャンマーからも留学生を受け入れる予定で、彼らを経済的に支援するための「メディカルニューウェイブ」というファンドも立ち上げています。医療は国の根幹であり、国民の病気はその国の人たちの力によって治すのが基本です。それをバックアップするのが日本の役割だと思っています。これからもタイやミャンマーへの医療支援活動を続け、国際交流にも貢献していきたいと思っています。



タイからの留学生を受け入れている新浪博士教授。

彌生塾

リーダーとして活躍する
女性医療人の輩出をめざす



2018年12月8日、東京女子医科大学の弥生記念講堂において小池百合子東京都知事が講演を行った。大盛況だったこの講演会は、女子医大の女性医療人キャリア形成センターが運営する「彌生塾」の主催によるものだった。

「彌生塾講演会」で女性活躍推進について講演する小池百合子東京都知事。

●小池知事が女性活躍推進策を披露

女子医大は、「高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出する」ことを建学の精神としている。この精神を受け継ぎ、リー

ダーとして社会に貢献する女性医療人を輩出することを目的に創設されたのが「彌生塾」である。名称はいうまでもなく、女子医大の創立者・吉岡彌生先生に由来している。

彌生塾は、女子医大に在籍する女性医師と学外の女子医大卒業生および医

学部6年生を対象とし、塾にメールアドレスを登録した人を「塾生」、その中でさらにキャリア形成をめざして個別指導などを希望する人を「本科生」と称している。現在、塾生は291人、そのうち本科生は47人を数える。

彌生塾が主催する最大のイベントが、

年1回開催される「彌生塾講演会」である。2016年11月に東京女子大学の小野祥子学長(当時)を招いて第1回目が行われ、翌年12月に21世紀職業財団の岩田喜美枝会長(同)を招いて第2回目が行われた。そして2018年12月8日、小池都知事を迎えて第3回目の彌生塾講演会が開催されたのである。当日は塾生だけでなく、学内外の関係者や医学部3年生など約500人が聴講した。

小池知事の講演テーマは「東京都の女性活躍推進」。日本のジェンダーギャップ指数(社会進出における男女格差の度合い)が世界144か国中114位で、「女性の力が十分に活用されていない」とし、もっと女性に輝きを発揮してもらうための東京都における女性活躍推進の施策を紹介。「ワーク・ライフ・バランス」を“ライフ・ワーク・バランス”といい換え、育児・介護と仕事の両立や女性の活躍を後押しする働き方改革を推進していること、情報通信機器を活用して場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができる“テレワーク”の推進などを強調した。

そして、「小さな志を一つひとつ達成していき、いつか大きな志を成し遂げるように」との願いを込め、塾生や学生に向けて「少女よ大志と小志を抱け」という言葉を贈って講演を締めくくった。

● 教授と塾生が交流する ピアラーニング

彌生塾ではこの「彌生塾講演会」のほか、「彌生塾セミナー」や「英語セミナー」、



大学院で卵巣がんの研究を行う彌生塾本科生の明石慶子医師。

「ピアラーニング」などのプログラムを展開している。「彌生塾セミナー」は、リーダーシップや研究倫理、科研費(科学研究費助成事業)採択のための情報分析・計画書作成などをテーマとした各種セミナーを開催。「英語セミナー」は、英語論文の書き方や英語でのプレゼンテーションの仕方を学ぶもので、塾生・本科生に人気の高いセミナーである。

「ピアラーニング」は、キャリアアップをめざす本科生が指導的立場にある教授(主に女性)を囲み、キャリア形成のポイントや苦労話などを直接聞くという試みである。2017年4月からスタートしたピアラーニングは、同年度中に9回開催され、参加者は延べ約70人にのぼった。2018年度の開催は2回にとどまるが、教授と塾生・本科生が交流する極めて有意義

な活動だといえよう。

これらのプログラムに積極的に参加している本科生の一人が、現在大学院に通う明石慶子医師である。2012年に女子医大を卒業した彼女は、自治医科大学さいたま医療センターでの研修を経て同センターの産婦人科に入局。3年間、勤務医として働いたあと、2017年に女子医大大学院(形態学系専攻・実験病理学分野)に進み、子宮内膜症のがん化や卵巣がんについての研究を行っている。

● 生涯のロールモデルを 見つける場

「婦人科でがん患者さんを多く診てきましたが、再発を繰り返し残念ながら亡くなる方々の診療を通して医療の限界を感じました。若い患者さんも多く、世の中の担い手である世代が病に苦しんでいる姿を見るにつけ、女性がもっと健康で幸せでいてほしいと思うようになりました。では自分に何ができるのかと考えたとき、研究することだと。自分の研究内容が少しでも婦人科疾患の治療につながればとの思いから、大学院に進むことにしました。大学院修了後は病理専門医も取得し、婦人科医、病理医として幅広い視野でがんの研究を続けたいと思っています」

そう語る明石医師は、彌生塾を「生涯のロールモデルを見つける場」ととらえて

いる。1児の母でもある彼女は、「育児と仕事を両立させているロールモデルは身近にたくさんありますが、彌生塾は将来を見据えたロールモデルにも出会える貴重な場だと思っています」という。

そして、「英語セミナーは少人数で中身が濃く、もったいないと思えるほど価値があります。またピアラーニングは、女性医療人としてのリーダー像やリーダーシップのあり方を理解するうえでとても参考になります」とプログラムを評価し、「私もパッションを持ち続けてキャリアを積み、後輩たちのロールモデルになれるよう女子医大に貢献していきたいと思います」と抱負を語った。

● リーダーに求められる 覚悟と実績

彌生塾講演会が行われた12月8日の夕方、“リーダーシップ”をテーマとした「彌生塾セミナー」が中央校舎1階の会議室で行われた。15人の本科生が参加し、女子医大の吉岡俊正理事長・学長が講師を務めた。女性医療人キャリア形成センターの肥塚直美センター長、齋藤加代子副センター長のほか、昇格して間もない5人の女性教授も出席し、内田啓子塾長の司会によってセミナーが進められた。

吉岡理事長・学長は、「リーダーには“覚悟”と“実績”が求められます。常に

リーダーシップをテーマに吉岡俊正理事長・学長が講師を務めた「彌生塾セミナー」。

女性指導者を育てる風土が できつつあります

彌生塾 塾長
東京女子医科大学教授・学生健康管理センター長

内田 啓子

「彌生塾」は2015年8月に創設されました。そのきっかけは、2014年2月の医療事故とそれに伴う混乱への反省から設置された「内部統制に係る第三者評価委員会」による「建学の精神の希薄化を是正することが重要」との提言でした。女子医大の創業者・吉岡彌生先生がめざした「女性の社会的地位の向上」が建学の精神の根底にあるにもかかわらず、本学出身の主任教授が減少し、教員は職位が高くなるにつれて女性の比率が下がっているのが実状でした。

そこで大学再生計画の一環として、教授をはじめとする指導的立場に立つ女性医療人の育成を目的とした「彌生塾」が立ち上げられました。スタートしてまだ日が浅いものの、キャリアアップに前向きな本科生の中に



は職位を上げている人が少なくないように、結果も出始めています。若い人たちは、指導的立場にある女性を“スーパーウーマン”にとらえ、「自分はそのようにはなれない」と思いがちです。でも、女子医大には「やる気さえあれば指導者になれるチャンスが巡ってくる」という風土ができつつあります。

本科生の中から教授が生まれ、その人が次の本科生を指導していく。そうした好循環が続いていくような彌生塾にしていきたいと思っています。

先導していくという意識を持ってステップアップしていくことが重要。また、昇格していくためには自分の専門だけでなく、他の人の専門分野も含めて責任を持つことが大事です。これまで女子医大は、女性リーダー育成の環境づくりに努力してきました。これに答えて皆さんがリーダーをめざし、チャレンジしてくれることを期待します」と本科生に訴えた。

同席した教授陣からは、「リーダーになるには自分のストロングポイントを持つこと

が大切」、「学会での発表を繰り返し行って認めてもらうことが肝要」、「女性は外から声を掛けられるケースが多いと思います。それをチャンスにして人脈を広げていってほしいですね」といったアドバイスの声が上がった。

セミナーに参加した前出の明石医師が、「診療科や病院の垣根を超えて、リーダーとして活躍されている先生方のお話を聞けるのが彌生塾のすばらしいところです」と語ったのが印象的だった。



英語による効果的なプレゼンテーションの仕方を学んだ「英語セミナー」。





東京都調布市

古刹に抱かれた
文化・スポーツ都市



調布市のランドマークとなっている深大寺。

市のランドマーク・深大寺と鬼太郎ワールド

調布市のランドマークといえば深大寺(16ページの地図③)。隣接する神代植物公園(同①)とともに、一大観光スポットとなっている。深大寺の名は、深沙大王(じんじゃだいおう)という水神に由来している。深沙大王は、教典を求めてインドへ旅した玄奘三蔵を守護し、流砂河という大河を渡るときに力になったといわれている。開創は奈良時代の733年。満功上人(まんくうしょうにん)が法相宗の寺院として建立し、深沙大王の像を安置したと伝えられている。

その後、深大寺は天台宗に改宗され、平安時代の991年に比叡山中興の祖といわれている良源大僧正、通称・元三大師(がんざんだいし)の自刻像が深大寺に移された。東国の人々の安寧が深大寺に託されたのである。現在、深大寺最大の行事となっている「厄除元三大師大祭」(毎年3月3・4日に開催)に6万人も押し寄せるのは、元三大師信仰の厚さを物語っている。同時に行われる「だるま市」は、日本三大だるま市の一つとして全国的に有名だ。2017年には、東日本最古の銅造仏像「白鳳釈迦如来像」が国宝に指定された。

深大寺の参道にはそば屋をはじめ甘味処、土産物店などが建ち並び、風情のある門前を呈している。その中で異彩を放っているのが「鬼太郎茶屋」である。『ゲゲゲの鬼太郎』の生みの親・水木しげる氏の第二の故郷が調布だったことから、この地に「鬼太郎ワールド」が再現された。店内には鬼太郎をはじめとする妖怪グッズがずらり。喫茶コーナーでは「ゲゲゲラテ」や「目玉おやじの栗ぜんざい」、「一反もめんの茶屋サンデー」、「ぬり壁のみそおでん」などが味わえる。

神代植物公園とスポーツ都市のシンボル

四季を通じて花と緑が楽しめる武蔵野のオアシス、それが神代植物公園である。東京ドーム10個分に相当する広大な園内には、約4,800種類、10万本・株の樹木が植えられ、バラ園をはじめツツジ園、ハナミズキ園、ウメ園、ハギ園など30ものブロックが形成されている。日本古来の園芸植物の保存や、各種イベント・展示会なども開催。2016年にリニューアルオープンした大温室には珍しい熱帯の植物が集められ、彩り鮮やかな花々を鑑賞できるようになった。



深大寺で最も古い建造物である山門。



参道でひときわ目を引く「鬼太郎茶屋」。©水木プロ



鬼太郎の顔を描いた「ゲゲゲラテ」(上)と「妖怪クリームあんみつ」。©水木プロ



風情のある門前。



神代植物公園のバラ園。

東医療センターが2021年度に 荒川区から足立区へ移転

荒川区西尾久で80年以上の歴史を刻んできた東京女子医科大学東医療センター。
このほど足立区江北への移転が正式に決まり、
2021年度に三次救急や災害拠点機能を備えた最新の病院がオープンする予定である。

区東北部医療圏の新たな中核病院

2018年12月19日、「東京女子医科大学東医療センター建設及び運営等に関する基本協定」が足立区と東京女子医科大学との間で締結され、東医療センターが足立区へ移転することが正式決定した。

締結式では足立区の近藤やよい区長と女子医大の吉岡俊正理事長が協定書に署名捺印し、それぞれが挨拶。近藤区長は、「大学病院の誘致は68万区

民の悲願であり、基本協定締結に至ることができたのはたいへん喜ばしいことです。東医療センターは吉岡彌生先生が開設されましたが、私の名前も同じ“やよい”であり、『どうぞよろしく!』といわれているような気がします。これからも足立区と女子医大が一致協力して移転事業に取り組んでいきたいと思います」と述べ、吉岡理事長は、「足立区のご厚意により、念願だった新病院建設の夢を叶える第一歩を踏み出すことができました。新病

院は、現在お世話になっている荒川区を含めた区東北部医療圏と周辺地域に継続して貢献する医療施設でなければなりません。“至誠と愛”をもって移転事業を進めていく所存です」と決意を表明した。

続いて女子医大の副理事長であり、施設将来東医療センター新病院検討委員会の委員長でもある岩本絹子副理事長が、「東医療センターの建物が老朽化し、建替えも困難という事情から、荒川区内で移転先を模索していたところ、足立区から前向きな話があり、それがきっかけとなって基本協定締結を迎えることができました。この移転事業に当初から携わっている者として、今日に至りましたことを感無量に思い胸がいっぱいです。近藤区長をはじめとする関係各位の並々ならぬご尽力の賜です。新しく生まれ変わる東医療センターの実現に向けて、今まで以上のご支援・ご尽力をお願い致します」と挨拶した。



基本協定書に署名する足立区の近藤やよい区長と女子医大の吉岡俊正理事長。



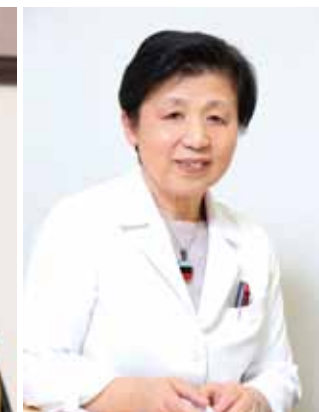
左から足立区の工藤副区長、長谷川副区長、近藤区長、女子医大の吉岡理事長、岩本副理事長、東医療センターの内潟病院長。



新東医療センターのイメージ図。女子医大のシンボルだった一号館のデザインが継承され、重厚感のある外観を呈する。



女子医大の岩本絹子副理事長。



東医療センターの内潟安子病院長。



救急車の受け入れがスムーズに

新東医療センターは、三次救急を担う救命救急センターをはじめ、屋上にヘリポートを設けた災害拠点中核病院、高度急性期病院、地域医療支援病院、がん診療機能、周産期母子医療センターの各機能を備えた先端医療施設となる。病床数は450床。その2割強の91床が、ICU(集中治療室)などユニット系の病床となるのが大きな特徴だ。

病院とともに看護専門学校、研修医・看護師寮、さらに院内保育所が併設されるのも特徴である。「雨が降っても傘をささずに病院と寮を行き来でき、保育所も格段に広がります」(内潟安子病院長)とのことだ。

東医療センターは現在、月平均600台

弱もの救急車を受け入れている。これは都内第3位の搬送件数だ。とはいえ、東医療センターへ通じる道路は一方通行の商店街であり、救急車のみならず車の通行には神経を使う。「移転先の新東医療センター周辺は道路事情も良好なことから、多くの救急車をスムーズに受け入れることができます」と内潟病院長は強調する。

新東医療センター建設に向け、近く施工会社が選定され、3月10日に地鎮祭が予定されている。そして順調に工事が進めば、2021年夏に建物が竣工し、同年度中に開院の運びとなる予定だ。現在の東医療センターと同様、地域住民に愛着を持たれる病院となるに違いない。



母性看護学実習



母親の偉大さと生命の尊さを実感

東京女子医科大学看護学部の学生は、3年次に母性看護学実習を行う。
出産に立ち会い、母親と赤ちゃんを看護する基礎的な技術を養うとともに、
女性のさまざまなライフステージにおける
母性看護の役割を理解するきっかけとなるのがこの実習である。



新生児の沐浴演習風景。

■ビデオ学習と演習で実習に備える

2018年10月中旬から12月初旬にかけて、看護学部の学生が4つのグループに分かれ、それぞれ10日間の日程で東京女子医科大学病院をはじめ東医療センター、八千代医療センター、至誠会第二病院を舞台に母性看護学実習を行った。

母性看護は妊婦、産婦、出産した褥婦、そして新生児が対象となるが、女子医大の母性看護学ではそうした母子(児)の看護だけでなく、ウーマンズヘルスの視点から女性の健康をとらえ、思春期や更年期のヘルスケア、ライフステー

ジにおけるホルモンの変化、世界の母子保健など幅広い教育を行っているのが特徴だ。

母性看護学実習は、妊・産・褥婦および新生児それぞれの特性を理解して看護を実践する基礎的な能力を養うとともに、そうした女性のさまざまなライフステージにおける健康支援に、母性看護がどのように関わっていけばよいかを理解することに主眼が置かれている。

では、11月12日から実習を行ったグループ(22人)の動きを追ってみよう。実習初日、学生たちは学内の実習室で終日、ビデオ学習と技術演習に取り組んだ。



ビデオ学習後に補足説明をする竹内道子講師。



人形を用いて新生児の抱き方や授乳の方法を学ぶ。

午前はず、「妊娠末期の健康診査」と「母乳の出る仕組み」をテーマとしたビデオを見ながら学習。そのあと3つの班に分かれ、それぞれ妊・産・褥婦および新生児に必要な基本的看護技術の理解・実施を目標とした演習にチャレンジした。具体的には、「妊婦の腹部触診・計測」や「胎児心音聴取」、「褥婦の回復観察」、「新生児の抱き方と授乳方法」などである。

午後は、「新生児の呼吸・循環・代謝」と「沐浴支援の手順・方法」についてのビデオを見たあと、「産痛緩和のための呼吸法・圧迫法」と「産褥体操」を体験。最後に、「新生児の沐浴」と「新生児のフィジカルアセスメント」演習を行った。

■コミュニケーション能力不足を痛感

技術演習は、精巧な人形やシミュレーターを駆使して行われる。新生児の人形はかわいらしく、学生たちはいとおしそうに4種類の抱き方や授乳のポジション

グを学び、沐浴演習では皆例外なく楽しそうに挑戦していたのがほほえましかった。また、妊婦のシミュレーターを用いた腹部触診で胎児の位置を確認したり、トラウベ(胎児心音聴診器)を使って胎児の心音を聴いたりした。

こうした事前学習や演習を経て、翌日から3つの班はそれぞれ女子医大病院、東医療センター、至誠会第二病院に分散し、実際の母性看護学実習に臨んだ。実習は外来と病棟の双方で行い、外来では妊婦さんの看護、病棟では産婦さんの分娩に立ち会うとともに、出産した褥婦さんと産まれた赤ちゃんを受け持って看護を実践した。

至誠会第二病院で実習を行った学生たちの声を拾ってみよう。H.O.さんは、「初めて分娩に立ち会い、赤ちゃんの産声を聞いたときはとても感動しました。その後の看護では、母子双方の視点からアプローチしなければならないことを学び

ました。特に、赤ちゃんがなぜ泣いているのか、そのサインを発見していくヒントを先輩ナースから教わったのが大きな収穫でした」といい、「私も赤ちゃんがほしくなりました」とはにかむ。

N.Y.さんは、「すべてが初めての経験で、受け持ったお母さんと赤ちゃんの日々の変化をフォローしていくのが大変でした。自分の親もきつと苦労しながら私を育ててくれたのだらうと思い、感謝の気持ちがわいてきました」という真情を吐露し、「将来の社会復帰を考えながら、20代後半には私も子どもを産みたいですね」と語る。

A.K.さんは、「赤ちゃんの沐浴は演習のときと違って泣いたり動いたりするので大変でした。でも、演習をしていなかったらもっと大変だったでしょうね」とその効果を指摘する一方、「妊婦さんも褥婦さんも基本的に病人ではなく健康な人ですから、その人の意見や性格に合わせて対



妊婦のシミュレーターで腹部触診を体験。



新生児のフィジカルアセスメント演習。



病院での実習終了後、学内でカンファレンスを行い、活発な意見を交わす。

応しなければなりません。それが難しく、コミュニケーション能力の低さをつくづく感じました」と反省する。

■母性看護の守備範囲の広さを理解

病院での7日間の実習を終えた学生たちは、その翌日、学内で「女性のライフステージを通した健康支援における母性看護の役割」をテーマにカンファレンスを行った。活発な意見が交わされたが、その中のいくつかを紹介しよう。

「望まない妊娠を避けるための情報提供や、不妊治療を受けている人への精神的なサポートも母性看護の役割」、「家族の支援がなければ安定した育児環境は保てないと思いますが、私が受け持つ

たお母さんのダンナさんは仕事で海外へ行ってしまいました。そういうケースでのサポートはどうしたらよいかを考えさせられました」、「子どもを育てるには経済的な負担もかかってきますから、その覚悟と家族計画が大切です」、「外来で付き添った妊婦さんは自営業で、出産したらすぐに社会復帰したいといっていました、どんな仕事をしているのか、その内容まで把握するべきでした」

さらに、「至誠会第二病院には、退院後も継続して母子を看護する“すすく外来”というのがあり、母性看護の役割を担っていることを知りました」、「高齢出産のリスクなどを説明するのも看護師の

役割ですね」、「子どもの虐待が起きたときの対応やその予防的ケアも母性看護と関わってくると思います」といった意見が聞かれた。

学生たちを指導した竹内道子講師は、「実習を通してきちんと計画を立てながらケアしようという態度や責任感が養われるとともに、褥婦さんへの倫理的な配慮や尊厳の意識も培われ、わずか1週間で学生たちはグンと成長しました。また、出産に立ち会った学生から「母親の偉大さと生命の尊さに感動しました」といった言葉も聞かれ、自分の親子関係を振り返るチャンスにもなったようです」と総括してくれた。

実習効果で助産師をめざす人も少なくありません



東京女子医科大学母性看護学教授 小川 久貴子

母性看護の現場には、「おめでとー!」と祝福する言葉が飛び交います。それが母性看護学実習の大きな特徴といえます。また、お母さんと赤ちゃんの複数を看護の対象とし、両者の看護計画を立案する必要がありますのも母性看護ならではの点です。さらに、母子の看護だけでなく、女性の生涯を通じた健康支援や家族全体への看護に重点が置かれているのも、母性看護の役割として見逃せない点です。

今の学生たちは、生命の誕生や新生児の養育に関わるのがほとんどありません。実習前に新生児人形で技術演習を行いますが、ぬくもりや泣き声、動き、匂いなどは分かりません。しかし、実習では個々の新生児の違いも分かるようになり、受け持った赤ちゃんに愛着がわいてきます。そして、お母さんが赤ちゃんはどう関わるのかを目の当たりにします。

そうした実習を通して、学生たち

は新生児の日々の変化と、母親としての役割を身につけていくお母さんの様子を観察し、母性看護を有意義なものにしていきます。

母性看護学実習は、出産数が減少している“少子化時代”だからこそ、学生たちにとっては貴重な経験となり、自分の将来設計を考えるきっかけにもなります。毎年、卒業生の約1割が助産師をめざしますが、それも母性看護学実習がもたらす効果といえるかもしれません。

——その11 外遊——

診療現場を退き欧米諸国を視察

学生の寄宿舍と病院の整備が一段落し、次に校舎を新しくすべく計画を進め、いよいよその工事に着手しようとしていた矢先の昭和12(1937)年、日中戦争が勃発した。その影響で建築費が高騰し、鉄筋建築の制限令も出されたことから、工事は当分見送らざるをえなくなってしまった。

「学校と寄宿舍と病院が三位一体となって完成したときが、医専から大学への昇格に必要な設備の条件が整ったことを意味する」と考えていた彌生にとって、工事に着手できない無念さはひとしおだった。夫・荒太が臨終の際に残した「大学にしたい」という言葉が、「今なお私の耳から消え去りません」と語っていることからそれがうかがえる。

そうした中、彌生は文部省・厚生省の嘱託として、ドイツを中心とした欧米諸国の医学教育、母子保護事業の視察を要請された。当時、60代半ばを過ぎていた彌生は、まだ現役の医師として医療活動を行い、さまざまな社会活動も精力的にこなしていた。とはいえ、寄る年波には勝てず、そろそろ引退しようと考えてようになっていた。

そこにもたらされた海外視察の話である。引き受ければ半年間くらいは病院を留守にしなければならない。彌生はちょうどいい機会だと思い、外遊に先立つ昭和14(1939)年4月、きっぱりと医療現場から退くことを発表し、余生を女性医師の養成と社会・女性教育に捧げる決意を表明した。

こうして5月11日、彌生は横浜港からアメリカへ向けて旅

立った。ハワイを経てサンフランシスコに着くと、ジョンス・ホプキンス大学に留学していた息子・博人が彌生を出迎えた。博人はその後、彌生が帰国するまで同行した。アメリカではサンフランシスコのほか、ロサンゼルス、シカゴ、ボルチモア、ニューヨークを訪れ、現地在住の日本人会や婦人会の歓迎会に臨んだり講演会に出席したりした。

6月20日、彌生は博人とともにニューヨークからドイツへ向かった。7日後にブレーメンに着き、その日のうちにベルリンに到着。ドイツの婦人会から大歓迎された彌生は、翌日からドイツ国内の病院や学校、社会事業施設などを見て回った。「母性・児童に対する保健衛生上の施設に留意し、すべての人々が楽しんで体位向上に努力しつつある姿はうらやましく、学ぶべきところが多いのを痛感しました」と、彌生は社会事業施設についての感想を述べている。視察はドイツ国内にとどまらず、北欧諸国にも足を向けた。

その頃、欧州は風雲急を告げる情勢を呈しており、ついに9月1日、ドイツ軍がポーランドに侵攻して第二次世界大戦に突入した。彌生が臨席予定

だったベルギーでの国際家庭教育会議も中止となり、彌生と博人は急遽、帰国することとなった。2人は9月2日にベルリンを脱出し、何度も汽車を乗り継いでコペンハーゲンに移動。そこから船でニューヨークへ渡り、アメリカを横断してサンフランシスコから船に乗って無事に横浜へ着いたのは10月28日のことだった。



ドイツ北部の都市・キール訪問時の歓迎会に洋装で臨む彌生。右は息子の博人。

編集後記

■中国・天津で医療活動をしていた宇良田唯は、満州事変の勃発によって帰国。ドイツを視察していた吉岡彌生は、第二次世界大戦への突入によって帰国を余儀なくされました。両者とも戦争に翻弄されたことを物語っています。■心臓血管外科の新浪教授は毎年

ミャンマーを訪れ、人工心肺装置を用いず心臓を拍動させながら手術を行う冠動脈バイパス術の普及に努めています。昨年11月末に訪れた現地でのその模様が、近々テレビ東京のドキュメンタリー番組「世界ナゼそこに?日本人」でオンエアされます。乞うご期待!

■小池百合子都知事が本学にて講演されました。WBSの初代キャスターを務めていたことから知る身としては、大変感慨深いもの。講演だけでなく、その舞台裏まで見ることができましたが、相手の期待を感じてそれに先んじて行動することができ、「社会に貢献する女性

リーダー」という意味では、まさに本学が目指すリーダー像でした。■昨年10月1日未明に襲った台風24号は各地に大きな爪痕を残しましたが、神代植物公園も「千万円単位の被害を受けた」とか。取材当日も園内で倒木など痛々しい光景を目にしました。